



今年1番の出来事 ~Part1~

年末号ということで、研究室のB4~M2, 先生方に今年1番の出来事(楽しかったこと, 大変だったこと, 頑張ったこと等)を書いて頂きました!



田村 光平

今年一番大変だった事は、卒業研究です。卒業研究は、目標を立て、その通り実現しようとしても、思い通りにいかない事が多く、大変でした。その度にアドバイスして頂いた先生や先輩方には感謝しています。



奥村 浩

生まれて初めて国外の大学で正規カリキュラムの授業を行った事と、必要に迫られて一晩でTensorFlow/Kerasをマスターした事かな。57歳のおぢさんが、新しいことを習得するは、皆さんが思う以上に大変なのです。



才所 翔太

私の一番の思い出は就職活動です。面接を何回か受けることで少しずつ自信がついてきたのですが、うまくできたと思った最終面接でサイレントお祈りされたことがあり、落ち込んだ思い出です。



築地 貴太

進路選択の度に先延ばしにしてきた就活というやつをとうとう今年やる事になってしまった。右も左もわからず周りに笑われたりもしながら無事に…と言っていいか分からないが、とにかく終える事ができた。



森本 大貴

私は趣味でBlenderを用いて3Dモデルなどを制作しているのですが、制作した3Dモデルをバーチャルマーケットというバーチャル空間最大級のイベントに展示したことです。様々な人に評価されてよかったです。



宮川 俊二

今年は2つの学会に参加させていただきました。2つともオンラインでの開催でしたが、いつものゼミのように落ち着いて発表できたと思います。自分の研究について改めて考えるいい機会でした。



松永 勇樹

今年で一番大変だったことは研究で行った抱っこ撮影会です。撮影会の前に数回打ち合わせをし、入念に準備を行いました。その結果無事に撮影会を終えることができたのでよかったです。



古賀 光稀

私が今年1番頑張ったことは研究室活動だと思います。また、私には行動力・発言力がまだ不足していると感じました。将来社会で生きるために必要なものを感じる事が出来た良い一年だったと思います。



陳 美緒

今年で一番大変だった事は就活です。私は就活をかなり遅い3月から始めてしまいました。その遅れを取り戻す為に深夜2時まで毎日企業情報を調べ、面接対策し、何とか4月に内定をもらうことができました。



宮田 竜輔

一番印象的だったことは就職活動です。自己分析や企業研究をしていると、過去の自分と今の自分、そして未来の自分の3人で人生会議をしているような、そんな不思議な感覚になったり、ならなかったりしました。



松本 直樹

自分の今年一番の出来事は大学院入試です。過去問がたくさんあったので友人2人とほぼ毎日研究室に通い試験勉強をしました。合格発表までかなり心配していたけどなんとか合格できたので嬉しかったです!

今年1番の出来事 ～Part2～



河原 杏香

今年一番大変だった事は、卒業研究です。中でも、ゼミ等で発表する機会が増えたので、自分がやっていることを他人にわかりやすく伝えるということが、とても難しいと感じました。



徳丸 拓希

コロナが落ち着いた頃、高校の同級生5人でバーベキューを行いました。たくさんお肉を食べて、高校の頃や普通の生活の話をして、同級生っていいなあと感じました。



福田 修

CPS研究室の活動が様々な面で充実してきたことが、何より楽しく、幸せなことだと日々感じています。プライベートでは、長女が成人し、次女が中学生になったことかな...



山口 大貴

僕が今年一番嬉しかったことは、自分で製作したロボットアームがきちんと構築した制御系によって動作してくれたことです。今後も頑張って研究続けていきたいと思っています。



山田 将司

今年の思い出はとても忙しく、とても充実したあつという間の1年間だった記憶しかありません。来年卒業なのでさらにレベルアップできるよう頑張っていきたいです！



船原 優希

今年は卒業研究が大変でした。最初の頃は先輩方のやり方を模倣して行っていましたもうまくいきませんでした。方法を変えたことによりうまくいくようになって良かったです。卒論頑張ります。

研究者を目指してみませんか？

研究者になりたいけれど、なる方法がよく分からないという学生はいませんか？研究や開発については第5号で書きましたが、とても楽しくやりがいのある仕事だと思っています。

研究職に就くためには、大学や高専の教員、公的な研究機関、いわゆる大企業の研究開発部門などに所属するというのが一般的ですが、まずは、博士号の取得が必須条件と考えて良いでしょう。博士号の取得基準は、学会での査読審査を経た学術業績(論文や国際会議など)で、一般的には、博士前・後期の間にこれらの業績を積むこととなります。既に論文などの業績がある学生は、少し有利になったと考えることができます。学費などが気になる学生もいると思いますが、早期に業績を積み、国の支援(<https://www.jsps.go.jp/j-pd/>)で給料を得ながら博士取得を目指すことも可能です。その他、指導教員がアルバイトなどを用意してくれることもありますし、多少の苦学生を我慢できればきっとなんとかなります。

もちろん、博士号は十分条件ではなく、取得できたからと言って道が約束される訳ではありません。博士取得者の就職活動(例えば<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>に求人情報があります。)が待っており、研究者としての問題発見・解決能力をプレゼンなどで詳細にチェックされます。ただ、これは乱暴に言えばゼミや学会のQAの延長と考えることができます。しっかりと研究室での活動に向かい合えば、必ずその力を身につけることができます。業績も同時に評価されますので、学生時代に頑張った研究活動の業績は、直接的な後ろ盾になるでしょう。特に若いうちは業績と評価が比例しますので、努力を公平に査定してもらえと思っています。

研究者への道は決して簡単ではないのですが、それはどのような仕事であっても同じです。もし、少しでも興味がある学生がいたら、まずは軽い気持ちで相談し、研究者の世界を覗いてみて下さい。

執筆:福田 修



江口 大雅

今年の頑張りは中学校の非常勤講師と大学院(^-^;)両立させたことかなと思います。パフォーマンスが落ちることもありましたが何とか一年乗り切れたので良い経験ができたなと思っています(^-^;)。

今年1番の出来事 ～Part3～



吉田 京平

院試と中間発表を頑張りました。8月末にあった大学院試に向けて試験勉強を行い、それが終わってからすぐの中間発表の準備が重なり非常に大変でした。卒論発表に向けて頑張っていきたいです！



山口 暢彦

今年1月に2人目となる長女が生まれました。子育て大変ですがけっこう楽しいです。特に1人目と2人目で性格が大きく違う(男女差?)事に驚いています。



高柳 美保

今年1番頑張ったことは、研究と講義の課題、趣味のダンスの両立です。研究活動では初めて学会に参加しました。質疑応答や英語での発表の難しさを感じましたが、とてもいい経験になりました。



中野 功輝

今年一番の出来事は先行研究の発見です。そのプログラムを実行したら研究が終わってしまいテーマを変えざるを得なくなりました。卒論に向けて頑張ります。



羽根 由恵

我が実家が新しい猫をお迎えしてしまいました。気が付けば8匹の猫と1匹の犬と2羽の鳥の大所帯に。私も休日にはお世話しに帰省しています。大変ですがこれが苦にならない程楽しい。



志田 亮介

今年は研究というものの大変さと面白さを知れました。研究は実際に行い、簡単なものではないと身に染みて感じました。しかし、それと同時に学ぶことで自分にできることが増えていくのが嬉しかったです。

～OB・OGからのメッセージ～

執筆：添島 克駿 2020年度 山口研究室卒業生 <大学院>

■現在の職種・業務内容

AI技術を用いたクラウドサービスの開発をしています。毎日ソースコードとにらめっこしています。

■大学(研究・研究室内の活動)での経験が社会に出て役立ったこと

ゼミなどを通して先生方と交流した経験です。そのおかげで先生方と年代が近い上司の方とうまく接することができている気がします。あと、AI系の部署に配属されたので、研究を通して学んだ機械学習の知識がたまに役に立っています。

■大学(研究)と社会人との違い

到達すべきゴールの有無だと思います。社会人はゴールが決められていることが多いと思います。そのゴールは必ず到達しないといけません。期限を守れなかったりすると偉い人やお客さんからすごく怒られます。大学では感じたことない圧があります。対して研究は、ゴールがないor到達しなくてもよいと思っています。すごい結果が出る人やなかなか進まない人、色々いると思いますが、結果に関わらずみんなが出来る限り最善の努力をするような雰囲気が好きだったなあと思います。

■社会人になって感じた、学生時代にやっておけばよかったこと

講義をまじめに受けておけば良かったです。特にシステム設計とセキュリティは大事です。情報系の職場だったらどこに行っても付きまとうと思います。私はそれらを軽視していたので今すごく苦勞しています。

■社会人になって変わったこと(生活、環境、心の変化等)・大変だったこと

変わったことは自由に使えるお金が増えたことです。一通り好きなものを買って、もうほしいものはなくなりました。大変なことは、平日は毎日8時間以上働かなくてはいけないことです。(毎日5～6コマ講義を受けるのと同じ時間と考えると恐ろしい)ただ、案外慣れます。

■研究室の後輩へメッセージ

卒業すると研究室の日々が楽しかったなあ恋しいなあと思うことがよくあります。忙しくなったり遠くに行ったりで仲間となかなか会えなくなるかもしれません。今のうちにたくさん遊んでいい思い出を作ってください。

～OB・OGからのメッセージ～

執筆：村上 綾 2020年度 山口研究室卒業生 <学部>

■現在の職種・業務内容

現在はアプリケーションSEとして、開発・研究を行う部署に所属しています。様々な開発を行っていますが、今はAIチャットボットのパッケージ開発に取り組んでいます。業務内容としては画面設計からプログラム構築、テストまでのシステム開発一連を行なっています。

■大学(研究・研究室内の活動)での経験が社会に出て役立ったこと

研究室では月1で発表する機会があったので、発表資料の作成や人前で発表することに関して役に立ったと思います。

■大学(研究)と社会人との違い

開発のスピード感です。研究は主に1人で1研究だと思うので、調査に時間がかかり試行錯誤するためスピード感が遅いですが、システム開発となると1つの開発に多くの人が関わるため、知識量も違いますし、開発のスピードが全然違います。

■社会人になって感じた、学生時代にやっておけばよかったこと

基礎的な資格の取得または勉強です。日々の業務に疲れて資格勉強する元気がないので、時間に余裕があるうちに勉強しておけば良かったなと思います。あとは他の人の研究に興味を持つことです。どんな技術を使ってどんなことしているのか理解しておけば、社会人になってから色んなアイデアが思い浮かぶのではないかなと思いました。

■社会人になって変わったこと(生活、環境、心の変化等)・大変だったこと

活動時間が決まっていることですかね。大学時代は研究できる時に研究して、バイト行ってなど時間に融通が効くのですが、社会人になると1日の大半は業務で時間が決まっているので残りの時間をどう上手く使うかが大変だと思います。ただ規則正しい生活は送れるので健康にはいいと思います。

■研究室の後輩へメッセージ

分からないことをそのままにせず、人に聞くなり自分で調べるなりして1つずつ解決していってください。社会人になっても分からないことが出てくるのは当たり前なので放置しないことを今のうちから習慣づけておくといいと思います。また希望の企業に行けたり行けなかったりすると思いますが、そこでどう生きていくかは自分で決めることができるので、与えられた場所で最大限力を出し切ってみてください。

今年1番の出来事 ～Part4～



江藤 博文

コロナが多少沈静化し、用心しながらもなんとか北海道には旅行に行けたのが良かったです。しかし、南の島には去年に引き続き行けてないので、来年こそは南の島に安心して行けると良いですね。



湊田 智彦

コロナ禍の煽りをうけネットでの交流が多い年だった。様々な職業の日本の方ももちろん、海外の方との交流も多くあり、様々な視点から自分の価値観を広げられた年だったと思う。



山口 真琴

今年は、昨年と違い研究にプラスして講義があり、レポートや課題を頑張った年だった。他の学科の研究内容を知る機会があり、刺激を受け、自分も研究を頑張りたいと思った。



溝口 朝斗

今年1番大変だった事は「就活」です。コロナ禍かつ一年休学していたと言うこともあり、あまり上手く進める事が出来ませんでした。最終的に納得いく結果が出て良かったです。

編集後記

今年もマガラボの執筆やアンケートにご協力頂きありがとうございました。良いお年をお迎えください！



【背景写真(初日の出)】



【大掃除の様子(12/21開催)】